

- ③ボールが、支柱とコート面に同時に触れたとき。
 ④ボールが、2本のアンテナ、またはその想像延長線の間を通過しなかったとき。
 ⑤ボールが、ネット下を通過して、相手方コートに入ったとき。

(注解)

次のような、ボールの支柱、ネット、アンテナなどへの接触は、サービスされたボールを除きその後プレーを続けることができる。
 ①ネット上端(2m)の水平帯以下の支柱に触れたとき。
 ②ネットとアンテナに同時に触れたとき。

6. プレー上の反則

次に挙げるプレーは、反則となる。

- (1) チームが、ローテーション順を誤ってサービスを行ったとき。(サービス順の誤り)
 (2) サービスボールを打った瞬間、あるいはジャンプ・サービスをするため踏み切ったときに、コート(エンド・ラインを含む)やサービス・ゾーン(あるいはショートサービス・ゾーン)外のフリー・ゾーンに触れていたとき。(フット・フォールト)
 (3) サービスが打たれた瞬間に、両チームの各競技者が、コート内で正しいポジションに位置していなかったとき。(アウト・オブ・ポジション)
 (4) サービスされたボールが、ネットあるいはアンテナに触れるか、相手方競技者に触れずにボール・アウトになったとき。(サービス・フォールト)
 (5) サービスされたボールを、アタック・ヒットしてそれが完了したとき。また、「ファミリーの部」でバックに位置した大人の競技者がアタック・ヒットして、それが完了したとき。(アタック・ヒットの反則)
 (6) サービスされたボールを、ブロックしたとき。また、「ファミリーの部」で

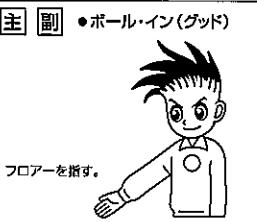
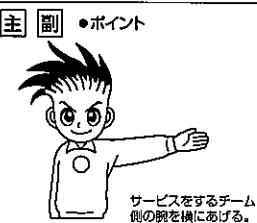
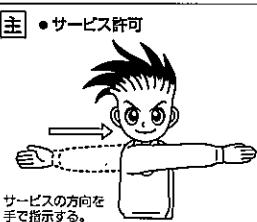
- バックに位置した大人の競技者がブロックしたとき。(ブロックの反則)
 (7) ネットを越えて相手方コートに打ち返すために、ボールへの接触がブロックへの接触を除いて最大限3回を越えたとき。(オーバー・タイムス)
 (8) ボールに接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあったとき。(ホールディング)
 (9) ブロックの場合を除き、同一競技者が、明らかに2度続けてボールに触れたとき。(ドリブル)
 (10) イン・プレー中に、ネットやアンテナに触れたとき。(タッチ・ネット)
 (11) ネットによって分けられた相手方コート上にあるボールに触れたとき。(オーバー・ネット)
 (12) センター・ラインを完全に越えて、相手方コートに触れたとき。(パッシング・ザ・センター・ライン)
 (13) ボールがアウトになったとき。(ボール・アウト)
 (14) 両チームの競技者が同時に反則を犯したとき。ネット上で両チームの競技者が同時にボールに接触し、そのボールがアンテナやコート外の物体に触れたとき。(ダブル・ファウル)
 (15) 相手チームのプレーを妨害する行為があったとき。(インター・フェア)

(注解)

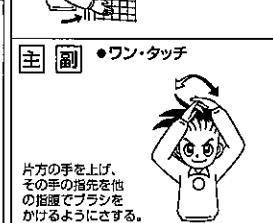
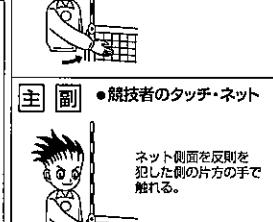
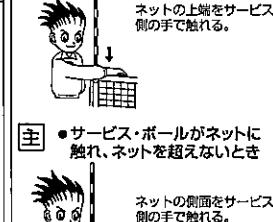
- ①タッチ・ネットは、ボールをプレーしようとしていないときに、偶然に触れた場合は反則とはならない。
 ②パッシング・ザ・センター・ラインの反則で、片方の足(両足)または片方の手(両手)の一部がセンター・ラインに接触しているか、その真正上に残っていれば許される。しかし、肘、膝、頭などの身体部分が相手コートに接触した場合は反則となる。

審判員のハンド・シグナル

審判員　主：主審 副：副審



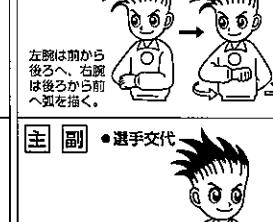
審判員　主：主審 副：副審



審判員　主：主審 副：副審



審判員　主：主審 副：副審



線審のフラッグ・シグナル

線審　線：線審

